

第11回町田地区 高校生美術展

都立町田高等学校教諭 那知上

平成25年をむかえてすぐ、町田市国際版画美術館の市民展示室で、第11回町田地区高校生美術展が始まった。

参加校は、町田高等学校、町田工業高等学校、小川高等学校、成瀬高等学校、野津田高等学校、山崎高等学校の6校に加え、今年から新たに町田総合高等学校が参加することとなった。



学校の再編成が進む中、新たに開設された都立高校が作品展に加わってくれることは、この美術展において本当に喜ばしいことである。前回、第10回の町田地区高校生美術展では、美術展初期からシルクスクリーンで手作りしてきたポスターを展示し、この美術展の継続と新たな第一歩を願った。今年新たな参加校があったことは、まさにそのはじめの一歩にふさわしいできごとだった。

町田地区高校生美術展には、参加校の生徒と顧問で組織する実行委員会がある。生徒たちは7月に行われた1回目の実行委員会で係り分担と、スローガンを決定する。今年のスローガンは「絵ブリデイ」。生徒は「私たちが毎日のように制作してきた作品を通じ、そこに込められた気持ちを感じてもらえるような美術展にしたい。」と話していた。

それから約半年後の平成25年1月8日から

1月14日までの7日間、第11回目の町田地区高校生美術展は開催された。

1月6日の搬入・展示と開会式は、生徒たちの笑顔に溢れるものになった。自分の作品について話をしたり、講評してもらったり、初めて目にする他校の作品に興味津々だったり、感動したり。朝からの搬入・展示作業の連続でかなり疲れているはずだが、生徒たちの表情は実に生き生きしていた。

町田工業高校はたくさんのキャラクターデザインの展示。独自のキャラクターを平面だけでなく立体でも表現。また、恒例になりそうなレベルの高い映像作品も人目を引いていた。小川高校で特徴的だったのはレコードジャケットのデザインを半立体的に展示したこと。作品の内容もさることながら、美しい展示となった。成瀬高校は数多くの油彩作品を展示。大小含めて、その数は50点近くと圧巻だった。野津田高校は多様な立体的の作品の展示。おいしそうなお菓子の作品に何人もが思わず手を伸ばして止めていた。山崎高校は「バランストイ」として様々な動きをする立体作品が楽しく、多くの人が見入っていた。町田総合高校は授業作品のペーパークラフトの椅子デザインが特徴的だ。他にも映像作品、キャラクターデザインと、非常に意欲的な取り組みがなされていることを感じ取ることができた。町田高校は夏季合宿で描いた信州の風景画から、最近取り組んだ作品を比較展示した。

後に忘れてならないのが夏休み中に町田市版画美術館で実習したリトグラフ作品の展示。どの作品も完成度が高く、ご協力、ご指導いただいた町田市版画美術館には深く感謝しなくてはならない。

これからも、生徒と教員と美術館、地域の連携の中に生まれたこの美術展を大切に発展させるよう努力していきたい。